

事業コード	H17-建-終-1		区 分	国庫補助 県単独
事業名	都市計画街路事業		部局課室名	建設交通部 都市計画課
事業種別	一種改築(バイパス)		班 名	街路班 (tel) 018-860-2444
路線名等	横山金足線(濁川)		担当課長名	高松 正彦
箇所名	秋田市濁川		担当者名	主幹兼班長 有明 滋夫
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	01	施 策 名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	指標コード	03	施策目標(指標)名	都市計画道路整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	H08 ~ H15 ( 8 年 )	総事業費	25.9 億円	国庫補助率	0.5	
事業規模	延長 L = 6 2 8 m 幅員(構成) W = 2 3 . 0 m (3.5-0.5-3.25*2-2.0-3.25*2-0.5-3.5)					
事業の立案に至る背景	横山金足線は秋田市の骨格をなす3環状6放射道路のうち、市街地環状道路と放射道路の一部に位置づけられており、秋田市の南北を結ぶ重要な道路である。 このうち濁川工区は市街地環状道路の一部を形成しており、一級河川旭川を横断し、濁川地区と外旭川地区を短絡する工区である。 本路線の整備により、秋田市市街地の通過交通を排除し、慢性的な渋滞の解消、都市内交通の円滑化及び生活道路への連絡強化を図るものである。					
事業目的	交通混雑の緩和(主要渋滞ポイントの解消) 市街地環状道路の整備 ICアクセス 救急医療施設へのアクセス性改善					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		当初計画	最終	最終コスト比較 $C / C = ( 0.96 )$  最終費用便益比 $B / C = ( 5.83 )$		
	事業費	2,698,000	2,584,550			
	経費内訳	工事費	1,065,452	916,906		
		用補費	1,361,000	1,419,371		
		その他	271,548	248,273		
	財源内訳	国庫補助	1,349,000	1,282,850		
		県債	1,127,000	1,074,000		
		その他	161,880	155,073		
		一般財源	60,120	72,627		
	事業内容	調査設計 用地補償 道路改築 橋梁上下部工	調査設計 用地補償 道路改築 橋梁上下部工			
事業終了後の問題点	沿線の住民においては騒音、振動に対する評価が悪い。 ドライバーから全線開通を望む意見が多い。					
住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象	受益者	一般県民	(時期:平成17年 8月)		
	満足度把握の方法	アンケート調査 各種委員会及び審査会 ヒアリング インターネット その他の方法(具体的に )				
	満足度の状況	目的地までの時間短縮効果や利便性の向上、走りやすさなどで高い評価を得ている。 消防車両の速達性向上、秋田組合病院や大学病院へのアクセス改善による緊急時の安心感向上などの評価も高い。				
上位計画での位置付け	あきた21総合計画の施策「快適で安全な生活を支える環境づくり」に位置づけられている。 秋田都市計画区域マスタープランにおいて概ね10年以内に整備する施設に位置づけられている。					
関連プロジェクト等	道路事業 秋田昭和線(外旭川工区) H16 供用 道路事業 秋田昭和線(手形山工区) H13 供用					

前回評価結果等	選定または継続      改善      見直し      保留または中止 指摘事項 なし																												
	指摘事項への対応 なし																												
事業効率把握の手法及び効果	<table border="1"> <tr> <td>指 標 名</td> <td colspan="4">都市計画道路整備率</td> </tr> <tr> <td>指 標 式</td> <td colspan="4">整備済延長 / 都市計画決定延長</td> </tr> <tr> <td>指 標 の 種 類</td> <td>成果指標</td> <td>業績指標</td> <td>低減指標の有無</td> <td>有      無</td> </tr> <tr> <td>目 標 値 a</td> <td colspan="2">48 %</td> <td rowspan="2">データ等の出典</td> <td rowspan="2">都市計画年報</td> </tr> <tr> <td>実 績 値 b</td> <td colspan="2">48 %</td> </tr> <tr> <td>達成率 b / a</td> <td colspan="2">100 %</td> <td>把握の時期</td> <td>平成17年    4月</td> </tr> </table>	指 標 名	都市計画道路整備率				指 標 式	整備済延長 / 都市計画決定延長				指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有      無	目 標 値 a	48 %		データ等の出典	都市計画年報	実 績 値 b	48 %		達成率 b / a	100 %		把握の時期	平成17年    4月
	指 標 名	都市計画道路整備率																											
	指 標 式	整備済延長 / 都市計画決定延長																											
	指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有      無																								
	目 標 値 a	48 %		データ等の出典	都市計画年報																								
	実 績 値 b	48 %																											
	達成率 b / a	100 %		把握の時期	平成17年    4月																								
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由  																													
具体的な把握方法と効果（見込まれる効果）      データの出典含む  																													

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 結 果
有 効 性	住民満足度の状況 A      B      C 平成17年8月に利用者、地域住民などに対してアンケートを行った結果、時間短縮効果や利便性向上、安全・快適性の向上などにおいて満足度が高かった。	A
	事業の効果 A 達成率100%以上      B 達成率80%以上100%未満      C 達成率80%未満 旭川で分断されていた濁川地区を連絡し利便性が向上した。 隣接する外旭川工区・手形山工区とともに交通の分散に寄与した。	B C
	事業の経済性の妥当性 A      B      C B / C は 5 . 8 3 となっており、経済性の妥当性は高い。	A
効 率 性	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上      B 縮減率20%未満      C 縮減なし	B C
	A ( 妥当性が高い )      B ( 概ね妥当である )      C ( 妥当性が低い ) バイパスの整備に伴い交通の分散が図られ、時間短縮効果や利便性向上、安全・快適性の向上などに対する住民満足度が高いことから当該事業は妥当である。	

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等（対応方針）

効率的な事業執行により横山金足線の未開通区間の早期完成に努める。  
 また、工事施工期間中及び供用後の騒音・振動を極力抑えるよう配慮し、説明会等を通して住民の理解が得られるように努める。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

## 終了箇所評価判定点検表

( 様式 8 - 1 )

### ( 1 ) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度の状況	a 住民満足度を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)	
		b 住民満足度を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が低い	1				
		c 住民満足度を把握していない	0				
	二 事業目標の達成状況	a 達成率が100%以上	2	2		B:有効性はある (1~3点)	
		b 達成率が80%以上100%未満	1				
		c 達成率が80%未満	0				
計			4	4		A	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	費用便益比	a B/Cが、国庫補助採択基準がある場合はそれ以上その他の場合は1.5以上となっている	2	2	A:効率性は高い (2点)	
			b a、c以外	1			
			c B/Cが、1.0未満	0			
	二 コスト削減の状況(費用便益比が算定できない場合)	a 当初と比較して最終コスト削減率が20%以上	2	0		B:効率性はある (1点)	
		b 当初と比較して最終コスト削減率が20%未満	1				
		c 当初と比較して最終コスト削減率がなし	0				
計			2	2		A	

### ( 2 ) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A	
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		